

編集後記

米サブプライムローンから派生した金融市場の動搖、資源高に加えて減速傾向に拍車がかかりつつある世界景気、グルジア侵攻やアフガニスタン情勢など緊張感が高まりつつある安全保障体制、身近なところでは食品の安全性や食糧の高騰と、悪い話題に関しては枚挙に暇がない状況になっています。

このような状況下にあって、企業は自社の持続可能な競争優位を創り出す『戦略的CSR活動』が求められています。気候変動危機に対して行動を起こすことも、企業の評判やリスク管理の面だけでなく、企業収益や市場で優位な地位を得るという点でも有意義な活動になります。その意味で、環境問題への対応を他社には真似のできないレベルにまで高めて自社のコアコンピタンスとすることにより、環境対応に優れた企業としてのブランドを確立して競争優位を獲得することは、たいへん重要と言えます。

リコーアクニカルレポート（RTR）も今年度で34号になります。そこで、当社の顔が少しでも見えるような特長を持たせるべく、環境について小特集を組んでみました。巻頭言は、環境推進担当である酒井取締役専務執行役員による、環境技術の重要性と今後当社が取り組むべき環境技術の方向性を『環境技術に期待すること』として、また、展望では、谷社会環境本部本部長による、当社が具体的に取り組んでいる主な環境技術の概要を『環境経営の概念と実現のための環境技術の概要』として、載せております。

編集に関しては、昨年度は招待論文の図表のみをカラー化しましたが、技術論文や製品技術解説の図表はモノクロのままでグラフや解析画像が見づらく、大変ご不便をおかけしました。そこで、今年度は少しでも図表を見やすくすべく、全ての図表のカラー化を図りました。逆に、技術論文、製品技術解説の図表の中に、カラー化を十分生かし切れていないものがある点はご容赦下さい。

このRTRを通じて、多くの方に当社の技術を知って頂き、当社の製品だけでなくプロセス、人を感じ取って頂ければ幸いです。

(小瀬古 久秋)

RICOH TECHNICAL REPORT NO.34 2008

編集委員長	株式会社リコー 研究開発本部	小瀬古 久秋
事務局	株式会社リコー グループ技術開発本部 グループ技術企画室	齊藤 泰弘 進藤 由貴 永井 清登(Web担当)
発行日	2008年12月1日	
発 行	株式会社リコー グループ技術開発本部 〒224-0035 神奈川県横浜市都筑区新栄町16-1 TEL 045-593-3411 Fax 045-593-3482 URL http://www.ricoh.co.jp/	
発行責任者	永松 莊一	
印 刷	日経印刷株式会社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-16-2	

非売品 禁無断転載 本誌に関するご照会は事務局までご連絡ください